

新約聖書 ルカによる福音書 17 章 11 節—19 節（新共同訳）

¹¹ イエスはエルサレムへ上る途中、サマリアとガリラヤの間を通られた。¹² ある村に入ると、重い皮膚病を患っている十人の人が出迎え、遠くの方に立ち止まったまま、¹³ 声を張り上げて、「イエスさま、先生、どうか、わたしたちを憐れんでください」と言った。¹⁴ イエスは重い皮膚病を患っている人たちを見て、「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と言われた。彼らは、そこへ行く途中で清くされた。¹⁵ その中の一人は、自分がいやされたのを知って、大声で神を賛美しながら戻って来た。¹⁶ そして、イエスの足もとにひれ伏して感謝した。この人はサマリア人だった。¹⁷ そこで、イエスは言われた。「清くされたのは十人ではなかったか。ほかの九人はどこにいるのか。¹⁸ この外国人のほかに、神を賛美するために戻って来た者はいないのか。」¹⁹ それから、イエスはその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った。」

※第 1 朗読と第 2 朗読は末尾に掲載

説教「清くされた」

旧約聖書のレビ記には、重い皮膚病にかかった人々への、独特の扱いが記されています（レビ記 13 章—14 章 32 節）。

重い皮膚病にかかった疑いのある人は、祭司のもとに連れて行かれました。祭司がその人を調べ、皮膚病に冒されていることを確認すると、祭司はその人に「あなたは汚れている」と言い渡します。

汚れていると見なされた皮膚病の患者は、人々との接触を禁じられ、社会から隔離されなければなりませんでした。

皮膚が癒えると、その人は再び祭司のもとに行き、祭司が皮膚病の治癒を確認すれば、祭司はその人に「あなたは清い」と言い渡します。

そして祭司は、皮膚病が治った人への清めの儀式を行い、それによって、その人は社会に戻る事ができたのです。

本日の福音書には、そのような時代背景においてイエスが行った、重い皮膚病を患う人々へのいやしと、いやされた人による神への応答が記されています。

イエスがある村に入ると、重い皮膚病を患っている十人の人がイエスを出迎えました（ルカ 17:12）。彼らがイエスに近づかずに、遠くの方に立ち止まっていたのは、皮膚病をもつ者は、他者との接触を禁じられていたからです。

イエスから遠く離れ、彼らは声を張り上げてイエスにこう言います。「どうか、わたしたちを憐れんでください」（ルカ 17:13）。

自分たちが抱える病ゆえにイエスに近づけなくとも、何とか必死でイエスに救いを求めようとしたのです。

イエスは彼らを見て、「祭司たちのところに行って、体を見せなさい」と言いました（ルカ 17:14）。

イエスのこの言葉の背景には、皮膚病が癒えた者は、まず祭司にそれを確認してもらい、その後に社会に戻ることが許されるという当時の社会的慣習がありました。

重い皮膚病を患っていた彼らは、皮膚病へのいやしがまだ行われていない段階で、早くも祭司たちのところに行って体を見せるようにとイエスから言われたのです。

彼らはイエスの言葉通りに、素直にそれを実行し、祭司のもとへ行く途中で皮膚病へのいやしが起こりました。

本日の福音書で、イエスの言葉によって皮膚病がいやされたこと以上に焦点が当てられているのは、神の恵みと憐れみに触れた一人のサマリア人の反応です。

重い皮膚病を患い、イエスに救いを求め、イエスの指示に従って祭司のもとに向かい、いやされたのは十人でした。その中には、サマリア人が一人いて、この一人だけが、大声で神を賛美しながらイエスのもとに戻ってきました。

そのサマリア人は、自分がいやされたのを知って、自分が回復した証明をしてもらいに祭司のもとに行くよりも、まず先に神を賛美したのです。彼は、神がイエスを通じて働かれたことを知って、ただひたすらに神を賛美します。

サマリア人は、イエスの足元にひれ伏して感謝します。福音書の他の場面では、イエスの足元にひれ伏した人たちは、憐れみと救いのわざを請うためにそうしました（マタイ 8:2、マルコ 5:22）。それとは対照的に、このサマリア人の行動は、これ以上何も求めるべくもない感謝の大きさを物語っています。

そして、ここで神を賛美するために戻ってきた一人が、サマリア人だったということにも意味があります。サマリア人は、民族的にユダヤ人と敵対関係にあり、ユダヤ人から見下されていた異邦人でした。十人の中でそのサマリア人だけが、イエスのもとに戻ってきたのです。

このサマリア人の信仰は、彼を含む十人が初めにイエスに訴えた、いやしと救いの嘆願ではなく、神へのあふれる賛美によって表現されています。サマリア人は、自分の幸運をただ喜ぶだけでなく、その喜びを神への賛美と感謝に転換したのです。

他の九人もいやされましたが、このサマリア人は「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」とイエスからの救いの宣言を受け取りました（ルカ 17:19）。

他の九人も自分の念願していたものを手に入れることができましたが、このサマリア人は自分が願っていたよりもさらに多くのものを受け取ったのです。

さて、10月に入り、最近は少し寒くなってきました。

私たちは、人生の中で悩んだり苦しんだり、ズッシリと気持ちが重くなることもあるかもしれません。

そんな時は、イエス・キリストの「悔い改めよ。天の国は近づいた」という言葉を思い起こしてください（マタイ 4:17）。

「悔い改める」とは、反省したり後悔することではありません。悔い改めとは、心を改め、方位磁石のコンパスがビシッと北側を指すように、神の方を向くことです。日々、悔い改めましょう。そして自分や周りの人々の人生が輝き開かれていくのを信じてください。

神の方を向いたあなたに、神は御顔を向けてくださっています。主が御顔をもってあなたを照らし、あなたを守られます。

悩み苦しみ、うずくまりながらも、救いと悔い改めを真摯（しんし）に求める私たちに、イエス・キリストはこう語りかけてくださいます。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」。

神のゆるしと愛がいつも私たちに与えられていることを覚えながら、試みの時も、喜びの時も、私たちは希望をもって共に歩んで行きましょう。

お祈りをいたします。

天の父なる神様。私たちがあなたのゆるしと愛のもとに、日々、悔い改めながら生きていくことができますように。助けを求める人に、あなたの救いの手を差し伸べ、御言葉を語りかけてください。御子 主イエス・キリストによって祈ります。アーメン

***** 説教ここまで *****

以下、本日に関連する聖書箇所（第1朗読と第2朗読）です。

旧約聖書 列王記下 5章 1節—3節と 7節—15節 b（新共同訳）

¹ アラムの王の軍司令官ナアマンは、主君に重んじられ、気に入られていた。主がかつて彼を用いてアラムに勝利を与えられたからである。この人は勇士であったが、重い皮膚病を患っていた。² アラム人がかつて部隊を編成して出動したとき、彼らはイスラエルの地から一人の少女を捕虜として連れて来て、ナアマンの妻の召し使いにしていた。³ 少女は女主人に言った。「御主人様がサマ

リアの預言者のところにおいでになれば、その重い皮膚病をいやしてもらえますように。」

⁷ イスラエルの王はこの手紙を読むと、衣を裂いて言った。「わたしが人を殺したり生かしたりする神だとでも言うのか。この人は皮膚病の男を送りつけていやせと言う。よく考えてみよ。彼はわたしに言いがかりをつけようとしているのだ。」

⁸ 神の人エリシャはイスラエルの王が衣を裂いたことを聞き、王のもとに人を遣わして言った。「なぜあなたは衣を裂いたりしたのですか。その男をわたしのところによこしてください。彼はイスラエルに預言者がいることを知るでしょう。」

⁹ ナアマンは数頭の馬と共に戦車に乗ってエリシャの家に来て、その入り口に立った。¹⁰ エリシャは使いの者をやってこう言わせた。「ヨルダン川に行つて七度身を洗いなさい。そうすれば、あなたの体は元に戻り、清くなります。」¹¹ ナアマンは怒ってそこを去り、こう言った。「彼が自ら出て来て、わたしの前に立ち、彼の神、主の名を呼び、患部の上で手を動かし、皮膚病をいやしてくれるものと思っていた。¹² イスラエルのどの流れの水よりもダマスコの川アバナやパルパルの方が良いではないか。これらの川で洗つて清くなれないというのか。」彼は身を翻して、憤慨しながら去って行った。¹³ しかし、彼の家来たちが近づいて来ていさめた。「わが父よ、あの預言者が大変なことをあなたに命じたとしても、あなたはそれとおりにさしたにちがいありません。あの預言者は、『身を洗え、そうすれば清くなる』と言っただけではありませんか。」¹⁴ ナアマンは神の人の言葉どおりに下って行って、ヨルダンに七度身を浸した。彼の体は元に戻り、小さい子供の体ようになり、清くなった。

¹⁵ 彼は随員全員を連れて神の人のところに引き返し、その前に来て立った。「イスラエルのほか、この世界のどこにも神はおられないことが分かりました。」

新約聖書 テモテへの手紙 二 2 章 8 節—15 節（新共同訳）

⁸ イエス・キリストのことを思い起こしなさい。わたしの宣べ伝える福音によれば、この方は、ダビデの子孫で、死者の中から復活されたのです。⁹ この福音のためにわたしは苦しみを受け、ついに犯罪人のように鎖につながれています。しかし、神の言葉はつながれていません。¹⁰ だから、わたしは、選ばれた人々のために、あらゆることを耐え忍んでいます。彼らもキリスト・イエスによる救いを永遠の栄光と共に得るためです。¹¹ 次の言葉は真実です。「わたしたちは、キリストと共に死んだのなら、／キリストと共に生きるようになる。¹² 耐え忍ぶなら、／キリストと共に支配するようになる。キリストを否むなら、／キリストもわたしたちを否まれる。¹³ わたしたちが誠実でなくても、／キリストは常に真実であられる。キリストは御自身を／否むことができないからである。」

¹⁴ これらのことを人々に思い起こさせ、言葉をあげつらわないようにと、神の御前で厳かに命じなさい。そのようなことは、何の役にも立たず、聞く者を破滅させるのです。¹⁵ あなたは、適格者と認められて神の前に立つ者、恥じるところのない働き手、真理の言葉を正しく伝える者となるように努めなさい。

教会讃美歌 131 番「聖なる聖なる」、172 番「つくりぬしを」、192 番「主イエスよ思いと」。